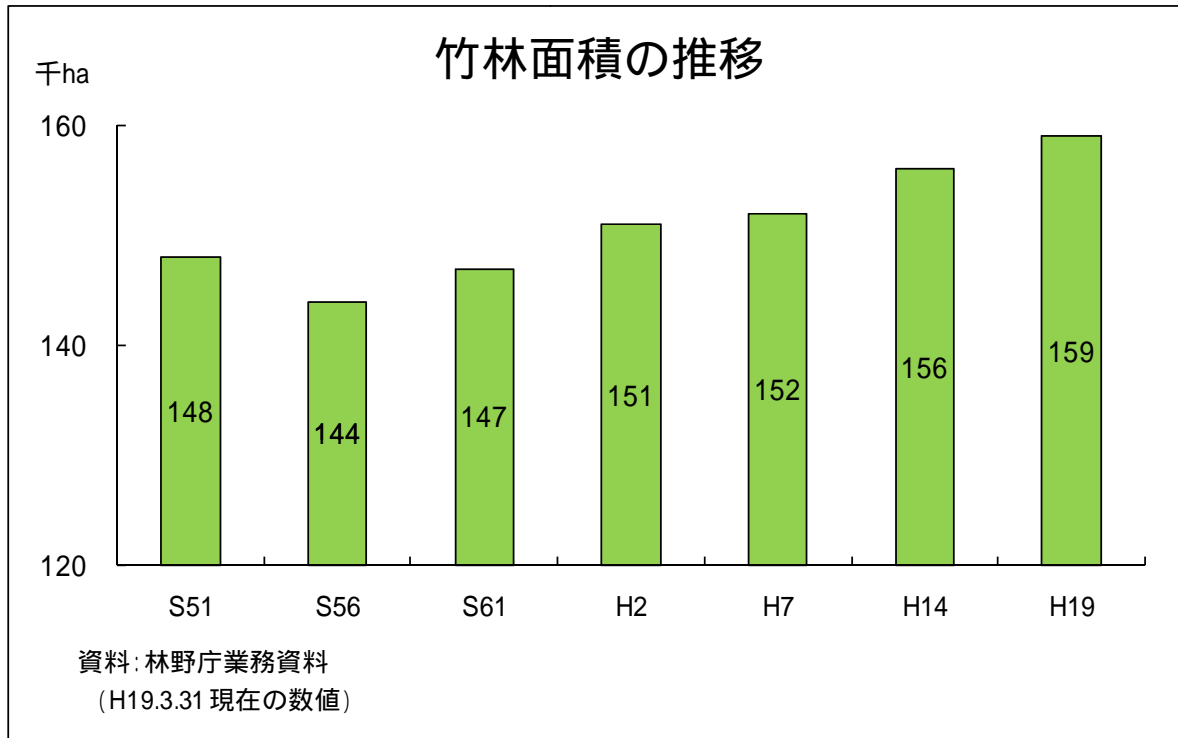


竹關係資料

1 竹林面積

- ・竹林面積は、昭和50年代後半から増加
- ・平成19年は、昭和56年に比べ約1割増加した159千ha
- ・このほか、侵入率25%以上の竹林を含めると、その面積は約41万ha



- ・竹林面積の多い都道府県は、九州、中国地方に多い
- ・竹林の森林に占める割合は、全国平均0.6%
- ・竹林面積の多い都道府県は、竹林割合も高い

竹林面積の多い都道府県

順位	都道府県	面積(千ha)	竹林面積(%)
1	鹿児島	16	2.7
2	大分	13	3.0
3	山口	12	2.8
4	福岡	12	5.4
5	熊本	11	2.3
6	島根	10	1.9
7	千葉	6	3.8
8	京都	6	1.6
9	岡山	5	1.1
10	宮崎	5	0.8
全国平均			0.6

資料: 林野庁業務資料 (H19.3.31現在の数値)

2 竹材の需給動向

(1) 需要量

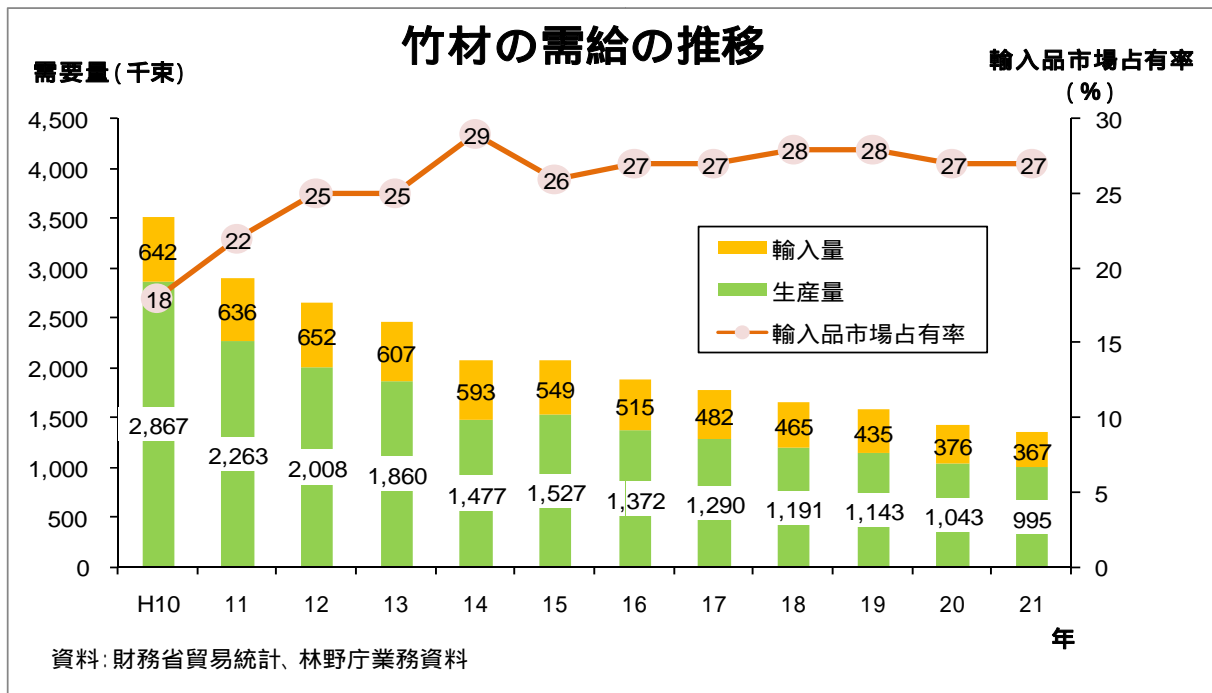
- ・近年、プラスチック等代替材の進出などにより減少傾向、平成21年は約136万束
- ・おもな用途は、漁業(海苔、牡蠣養殖)、建築(土壁)、造園用、工芸品用、農業用など

(2) 生産量

- ・需要量の減少傾向に伴い、平成21年は約100万束
- ・内訳は、モウソウチクが70万束(71%)、マダケが25万束(25%)、その他が4万束(4%)

(3) 輸入量

- ・近年は、徐々に減少しており、輸入品の市場占拠率は2～3割、輸入品のほとんどは中国産
- ・おもにマダケ属の一種で小径のもの、用途は造園用が主体



(4) 都道府県別生産量

- ・生産量の多い都道府県は、九州及び山口等の西日本に多い

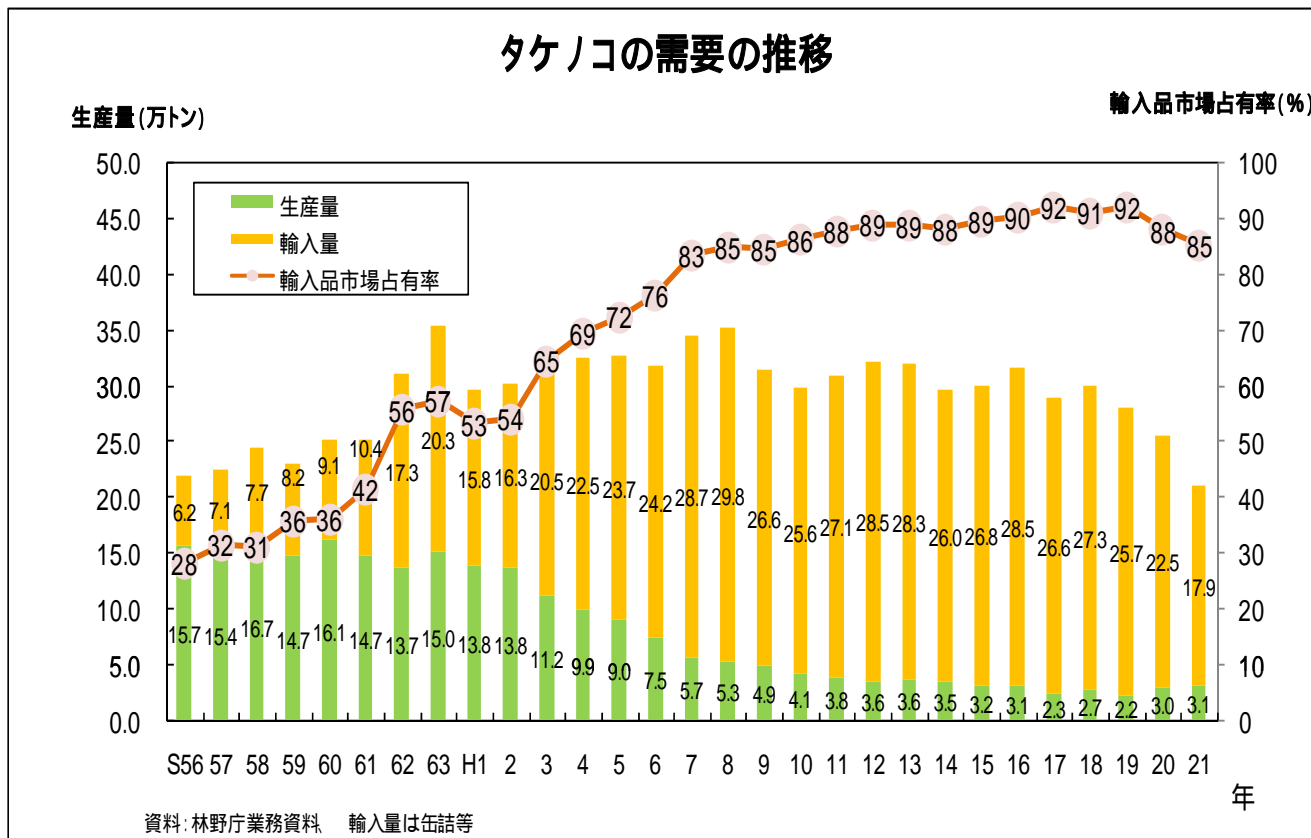
竹材の主な産地及び生産量(平成21年)

順位	都道府県	生産量(千束)
1	鹿児島	419
2	熊本	133
3	大分	118
4	山口	70
5	福岡	61
6	茨城	43
7	高知	22
8	千葉	18
9	京都	17
10	石川	17

資料: 林野庁業務資料

3 タケノコの需給動向

- ・生産量は、安価な輸入品の増加により、昭和60年頃の16万トンから減少し、平成21年の生産量は3.1万トン
- ・輸入量は17.9万トン(平成21年)で、ほとんど中国からの輸入
- ・主な産地は、福岡や鹿児島等の九州地域、京都、徳島など



タケノコの主な産地及び生産量(平成21年)

順位	都道府県	生産量(トン)
1	鹿児島	8,935
2	福岡	8,051
3	熊本	3,438
4	京都	1,710
5	徳島	1,072
6	宮崎	935
7	香川	931
8	静岡	880
9	石川	681
10	三重	528

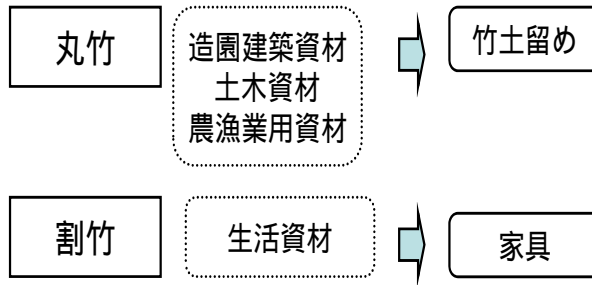
資料: 林野庁業務資料

4 竹資源の新用途への使用事例

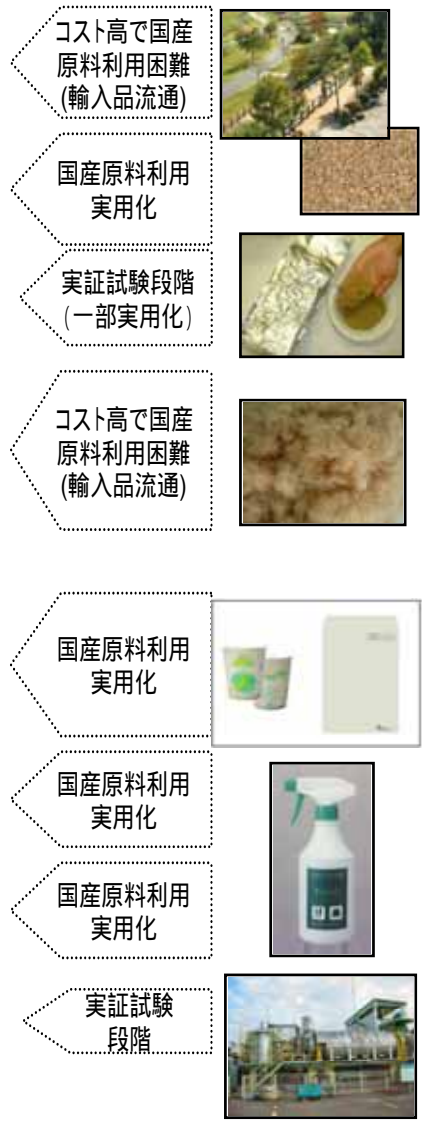
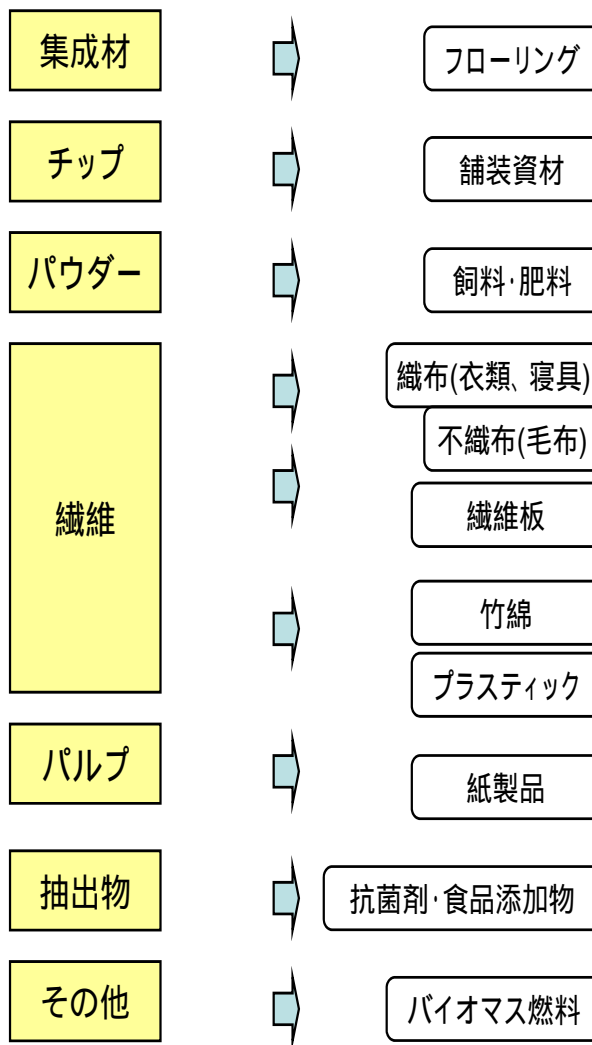
竹材
生産量: 995千束
輸入量: 11千トン
(換算: 367千束)

竹資源利用の例

従来の
用途



新たな
用途



竹炭 生産量: 0.9千トン

竹酢液 生産量: 357千リットル

タケノコ 生産量: 31千トン
輸入量(缶詰等): 179千トン

注) 統計数値は平成21年